様式６　別紙

事業名　高校生のサードプレイス「みつカフェ。」

事 業 主 体　名称：一般社団法人　ぐるーん
住所：岡山市北区下伊福西町 7 - 32 - 309
事業実施場所　岡山御津高等学校

～事業を始めるにあたって～
（地域の現状・課題・目標など）
岡山御津高校では、様々な家庭背景や発達特性などからの困難を抱えている生徒も通っているが、教員のサポートに加えて、より多様な地域の大人による関わりが必要とされている。校内において居場所カフェを定期的に（月二回程度）開催し、手作りの料理や傾聴、ワークショップの体験を提供する。年間を通じた開催によって健康面と精神面のサポート、安心できる空間、多様な体験の機会を提供することで、高校生の学校生活や卒業後の生活にも影響を与える他者への信頼感構築に寄与する。卒業後にも相談できるツールとして、公式 LINE を運用してニーズに応じた個別支援を行う。

～事業実施内容～
居場所づくり

① 事業名：居場所カフェの開催

居場所カフェの開催 15 回（参加者数は表参照）
ワークショップ 5 回（浴衣着付け、レジンアート、カードゲーム、ヨーヨーイベント、音楽ライブ）
教員との振り返り 2 回
場所：岡山御津高校の生徒ホール

実施日時	生徒数	スタッフ人数	ワークショップ、研修など
7 月 5 日 10:40～12:40	83	11	
7 月 19 日 10:30～12:30	67	8	浴衣着付ワークショップ
7 月 31 日 10:30～12:30	53	10	
9 月 1 日 10:40～12:40	76	8	
9 月 20 日 15:40～17:40	42	10	

10 月 13 日 10:40～12:40	57	7	
10 月 27 日 15:00～17:00	51	5	
11 月 8 日 15:30～17:30	71	7	
11 月 17 日 15:20～17:20	55	9	レジンアート
12 月 8 日 10:40～12:40	70	9	教員との意見交換
12 月 22 日 10:40～12:40	78	13	ヨーヨーイベント、悠々ホルンライブ、スタッフ研修
１月 9 日 10:20～12:20	61	18	カードゲーム、スタッフ研修
１月 31 日 10:40～12:40	55	9	バラ寿司プロジェクト
2 月 15 日 15:30～17:30	51	9	
2 月 28 日 10:30～12:30	57	11	教員との意見交換
延べ人数	927	144	

② 内　　容

月 2 回程度、放課後の２時間、校内の居場所カフェをオープンする。フードバンクや事業者からいただいた食材を使って、軽食やおやつを無償で提供し、高校生が自由に立ち寄り、友達との交流や飲食、スタッフとの交流やワークショップの体験を楽しむことができる。毎月アンケートを実施することで、高校生の声を聞き取り、直接話せない悩みを聞き取ったり、カフェ運営の参考にしている。

⑥活動の成果等

参加した生徒のアンケートからは、居場所カフェの場において「楽しい」、「おいしいものが食べられて、おなかがいっぱい」、「落ち着く」、「幸せ」など、前向きな気持ちになれる場になっていることが伺える。また日頃生徒に接している教員からも、手作りの料理や多様な体験を提供しているカフェが高校生を支えていることの意義について言及されることが多い。手作りの味噌汁を食べることがない、浴衣を着たことがないという生徒に対して、地域のサポーティブな大人が関わり、そのような体験を提供できることは、彼ら彼女らの経験値を増やし、学校生活や将来的な自立に向けて貢献できていると感じている。

育成学習会

スタッフ研修会

① 参加人数　1 回目 11 名、2 回目 18 名
　　参加者：ぐるーんサポーター

② 日　　時　　1 回目 12 月 22 日、2 回目 1 月 9 日

③ 場　　所　　岡山御津高校の生徒ホール

④ 内　　容　　1 回目「子どもからの SOS」講演
　　2 回目　カードゲーム講習会

⑤ 活動の成果等

1 回目：悠々ホルンさんによる「子どもの異変・気づきのヒント」のお話を聞いて、子ども自身が気づかないところにも SOS のヒントがあることなどを学んだ。

2 回目：　講師から 5 種類のカードゲームの説明を受けて、グループごとにゲームの練習をして感想を話し合い、高校生とのコミュニケーションツールを増やすことができた。

～事業を終えて～

〇事業実施による効果

校内で居場所カフェの運営を継続できたことで、気軽に安心して過ごせる居場所カフェが生徒に定着し、年間のべ 1000 人を超える高校生が参加した。不登校経験がある生徒や、心理的に不安定な生徒もカフェに毎回来て、手伝いをするなど積極的に関わることができ、カフェがあることが登校の励みになっていた。運営スタッフも経験者や研修受講者が増え、より安定して居場所カフェを運営できる態勢をつくることができた。十分な食事をとれていない、日頃手作りの食事を食べることが難しい生徒に対しても、手作りの美味しい食事を提供することができ、心身の安定や信頼感の醸成につながったと思われる。

〇今後の課題・展開

安心できる第三の居場所の運営は、様々な課題や不安定さを抱える高校生にとって、今後も求められている。運営継続のための資金確保を検討しつつ、居場所カフェの運営をつづけていきたい。

〇まとめ

高校の中に安心できる居場所カフェが開催されることは、様々な悩みや課題を抱える高校生にとって心身の充電をはかれることができ、学校生活の意欲向上にとっても有用である。また、学校でも家庭でもない第三の居場所において、多世代の大人との交流や多様な文化体験を提供することで、自己肯定感を高めたり、社会的な経験値を増やし、若者の育成に貢献できたと考える。この居場所カフェという支援形態は、学校と民間団体の協働なくして実現しないものだが、この高校ではカフェの存在や意義が浸透し、よい関係性の元で運営することができている。